



ひょうごフィールドパビリオン

Our Field, Our SDGs
私たちのフィールド、私たちのSDGs



阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

DRI The Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial
Disaster Reduction and Human Renovation Institution

We won't forget ~1.17は忘れない~

1995.1.17



阪神・淡路大震災の経験と教訓、 防災・減災・縮災の大切さを21世紀と世界に発信



人と防災未来センター長
河田 恵昭

世界は今、災害多発・激化時代のさ中、減災社会の実現が問われています。

2002年(平成14年)4月に兵庫県が国の協力を得て設置した、人と防災未来センターは、災害ミュージアムとして阪神・淡路大震災の経験と教訓を伝え続けています。

また、南海トラフ地震や首都直下地震などの防災研究や、その人材育成を推進するとともに、100年先に伝える防災の知恵を託した「防災100年えほんプロジェクト」を展開しています。

世界の防災・減災・縮災に貢献するセンターとして、これからも前進してまいります。

人と防災未来センターのミッション

阪神・淡路大震災の経験を語り継ぎ、その教訓を未来に生かすことを通じて、災害文化の形成、地域防災力の向上、防災政策の開発支援を図り、安全・安心な市民協働・減災社会の実現に貢献します。このため、震災の展示を通じて防災の重要性や共に生きることの大切さを広く市民に訴えます。

また、実践的な防災研究や防災を担う人材の育成、災害対応の現地支援、多様なネットワークを通じた連携などを、展示を含め一体のものとして推進し、知恵や情報の効果的な創出と体系化を進め、共有を促進します。

震災の経験や教訓、水害や津波の脅威など、防災・減災に関する情報を体験型展示も取り入れ、わかりやすく発信。

展示
(P3~4)

実践的な
防災研究と
若手防災
専門家の育成
(P5)

防災専門家を育成するため、若手研究員に対し、震災の応急対応や復旧・復興に活かせる実践的・総合的な研究などの育成プログラムを実施。

震災の記憶を風化させず、被災者の想いと教訓を次世代へ継承するため、震災資料を収集・解析し、わかりやすい防災情報として市民に発信。

資料収集・
保存
(P3)

人と防災未来センター
6つの機能



災害対応の
現地調査・支援
(P5)

大規模災害時に研究員等を派遣し、助言・情報提供等の支援を実施するとともに、実践的な知見の蓄積や成果の被災地へのフィードバックなどの「災害現場に学び、対策に活かす」サイクルを強化。

震災の経験と最新の研究成果を踏まえ、災害対策の実践的知識・技術を提供し、防災の中核を担う人材を育成、自助・共助・公助を目指す。

災害対策
専門職員の
育成
(P5)

交流・
ネットワーク
(P6)

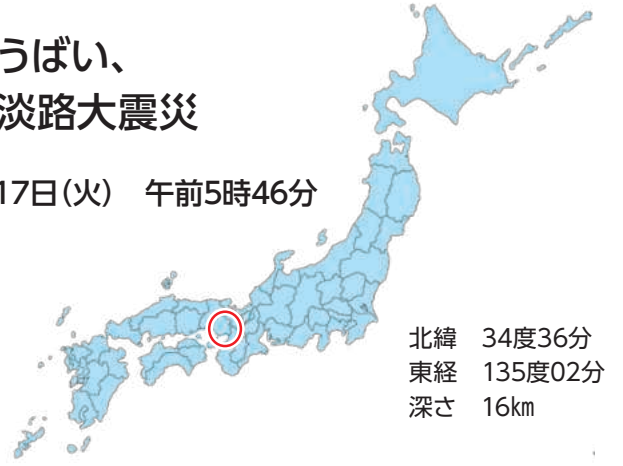
国内外の防災関係機関との連携や、若い世代へのアプローチをより一層強化し、地域防災の推進とまちのにぎわいづくりへ積極的に貢献。

一瞬にして六千人を超えるかけがえのない命をうばい、 深い傷跡を残した阪神・淡路大震災

■被害状況

死者数	6,434人
行方不明者数	3人
負傷者数	43,792人
家屋被害【全壊・半壊】	
世帯数	460,357世帯
棟数	249,180棟
兵庫県内被害総額 【直接被害額】	約9兆9,268億円 1995.4兵庫県推計

発生日時：1995年1月17日(火) 午前5時46分



地震による震度(推定)の分布図

被災各地の建物や基石などが受けた被害のデータ、アンケートに基づく各地の（体感等に基づき決定する）震度データ、計測震度計に基づく観測震度データ等、多岐に渡る情報源からのデータを収集・整理・分析して作図

出典 震度決定データ：藤本一雄大、翠川三郎

日本建築学会構造系論文集 第523号、71-78、1999年9月 ベース航空写真 国土地理院 地院地図タイトル

西館

4F 震災追体験フロア

① 1.17シアター

[上映時間7分]

阪神・淡路大震災の地震破壊のすさまじさを大型映像と音響で体感します。

毎時 00・20・40分

初回上映 9:40

最終上映 16:40



② 震災直後のまち

震災直後のまち並みをジオラマ模型でリアルに再現しています。



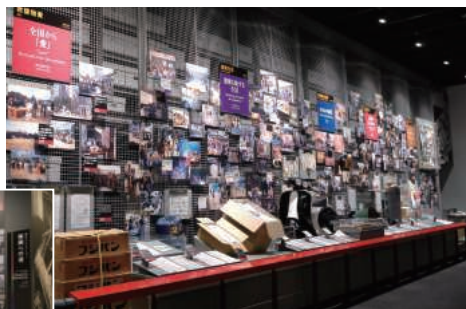
③ 大震災ホール [上映時間15分]

復興に至るまでのまちと人を、直面する課題とともにドラマで紹介します。

3F 震災の記憶フロア

④ 震災の記憶を残すコーナー

震災関係資料を提供者の体験談と共に展示しています。



⑤ 震災からの復興をたどるコーナー

地震直後や復興過程の生活・まちの姿をメッセージとグラフィックで解説します。

⑥ 震災を語り継ぐコーナー

ビデオで震災体験を紹介したり、「語り部」が自らの体験を語ります。



2F 防災・減災体験フロア



⑦ 災害情報ステーション

世界で発生した自然災害を学習します。

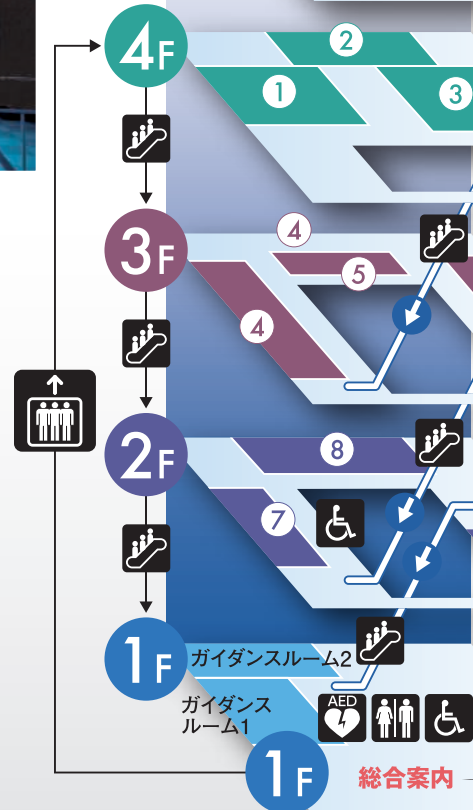
⑧ 防災・減災ワークショップ

実験やゲームを通して、防災・減災に関する実践的な知識を学習します。



⑨ 防災未来ギャラリー

防災・減災に関するさまざまな企画展を開催します。



※館内は、ボランティア、アテンダントが

資料室 西館5階 [資料閲覧・防災学習]

※西館の北側エレベータをご利用ください。
※資料室の利用は入館料不要です。

阪神・淡路大震災や防災に関する資料の収集・保存・公開を行っています。

資料の閲覧

●二次資料(図書やDVDなど)
資料室内に開架されており、自由にご覧頂けます。
●一次資料(震災の実物資料)
資料室内の資料検索用コンピュータやインターネットで検索することができます。閲覧を希望される場合は、事前にご連絡ください。
検索ページ <https://www.dri.ne.jp/library/collection/search/>

資料の貸出

原則行っておりません。ただし、映像資料や写真については、利用目的によって貸出できるものがあります。資料室へご相談ください。
震災や防災に関する資料について、ご相談に応じます。



河田文庫

2019年12月に開設。当センター長の学術研究に関する資料や成果を集約したライブラリーです。利用をご希望の方は資料室までお越しください。

1F ガイダンスルーム

[震災・防災学習プログラム] 予約制

プログラム1

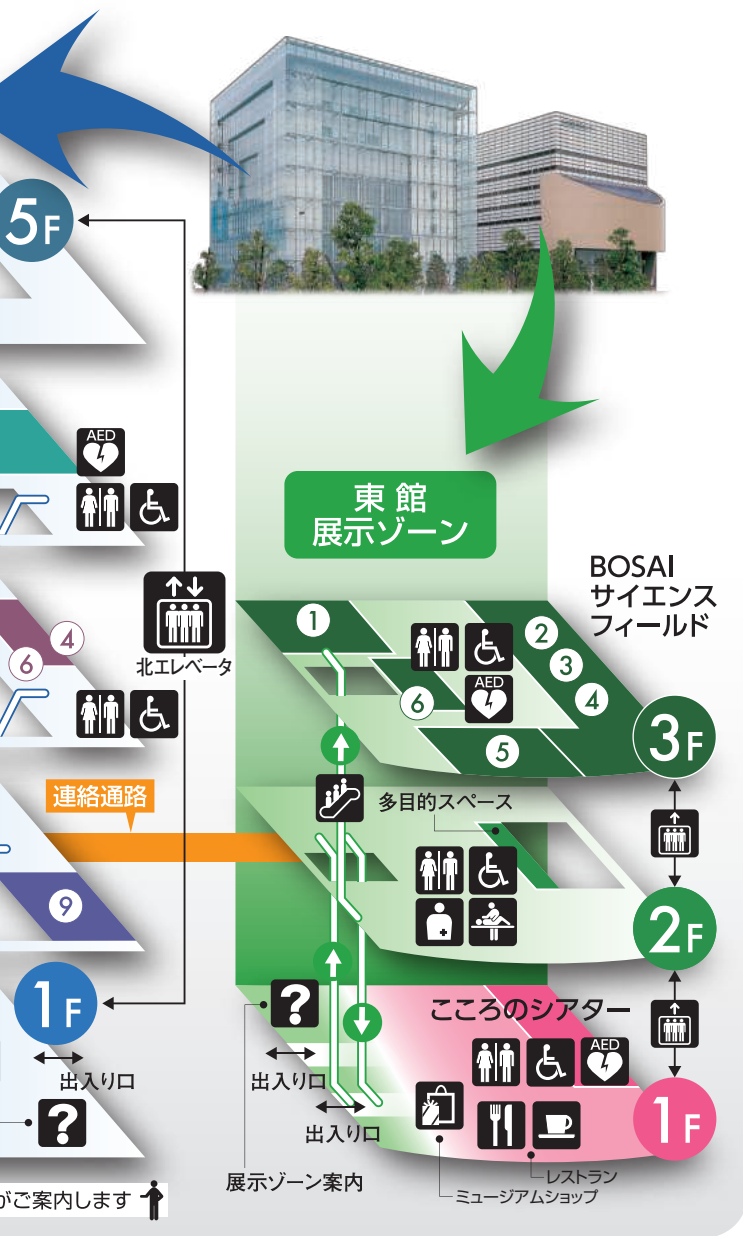
「語り部」による震災の体験談や心がけるべきこと等

プログラム2

センター研究員による防災セミナー
※小中学生対象、平日のみ



東館



3F BOSAI サイエンスフィールド 最新の防災知識と自然災害に備える力を養います

BOSAIサイエンスフィールドでは、幅広い世代の皆さんが、楽しみながら最新の防災知識を学び、自然災害に備える力を養うことができます。自然災害に遭遇したとき、自分や大切な人たちの命を守るため、どのような行動を取れば良いのか。さあ、このフィールドで、自分で考え、判断し、行動できる力を身に付けましょう。

①ディザスターウォール 自然災害ってなに？



地球上で起こる自然現象と人々の生活が変わることで自然災害が発生することを学びましょう。

②ジオ&スカイホール 災害はなぜ起きる？

自然現象のメカニズムを学び、それが自然災害とどのように結びつくのかを体験しましょう。



③ハザードVRポート その時、なにが起きる？

地震や津波、風水害の現場にあなたがいたとしたら…360°広がるVR映像と音声で体験しましょう。



④ミッションルーム 実際に起きたらどうする？

リアルに再現された住居やコンビニで、自ら状況を判断して避難行動につなげるためのトレーニングを行います。



⑤クエスチョンキューブ その行動、本当に最善？

災害時の様々な場面を体験できる映像空間でクイズに答え、命を守る最善の行動力を身につけましょう。



⑥ディスカバリーラウンジ これからどうする？

防災・減災に対する今後の取り組みや決意をメッセージとして残しましょう。



2F 多目的スペース

多目的スペースで、先進的な防災・減災の最新情報等を紹介いたします。
『伝える阪神・淡路大震災の教訓 106ダイジェスト・グラフィックス』



1F ココロのシアター

にげようー大切な命をまもるためにー語り 下野 紘 (声優)
災害を我が事として考える……。逃げることは、生きること……。
[上映時間約15分]
毎時 00・20・40分
初回上映 9:40
最終上映 17:00



©NHKエンタープライズ

ミュージアムショップ



レストラン



実践的な防災研究と若手防災専門家の育成

減災社会の実現に向けて、実践的研究で防災力向上に貢献します。

重点研究課題

- ①「社会現象の相転移」(社会に内在する構造的・制度的な脆弱性により被害が劇的に拡大する現象)を活用した事前防災の推進
- ②デジタル技術・AIを活用した防災研究の深化
- ③巨大災害を想定した広域受援・支援体制の構築
- ④気候変動適応と複合災害リスクへの対応
- ⑤高齢化・人口減少社会における減災・復興のあり方

研究員の育成

大学院・博士課程修了者等を研究員(常勤)として3~5年任期で採用。上級研究員の指導のもと、震災の応急対応や復旧・復興に生かせる実践的・総合的な研究調査を行うなど、防災研究の基礎を確立するための総合的な育成プログラムを実施します。

災害対策専門職員の育成

地方公共団体の防災担当職員などを対象に「災害対策専門研修」を実施します。

- [研修の特色]**
- 阪神・淡路大震災等の教訓を踏まえた実践的な研修
 - 巨大災害対策に必要な事項を体系的に網羅



コース名	目的	対象
トップフォーラム	今後発生する大災害時に各地方公共団体のトップに求められる対応などについて最新の研究成果や国の災害対策についての情報等を基にトップ自らが議論すること等を通じ、地方公共団体の危機管理のあり方を考える。	知事・市区町村長
マネジメントコース ベーシック	防災初任者が早期に災害対応できるようになることを目指し、阪神・淡路大震災等の経験を踏まえた各部門の災害対策のあり方など基礎的かつ実践的な事項について体系的に学習する。	地方公共団体における防災・危機管理担当部局の職員のうち経験年数の浅い者
マネジメントコース エキスパート	災害対応の具体的な事例や演習などを通して、大規模災害発生時に各種の対応が同時並行的に展開する状況を横断的・総合的にとらえ、これに対処する能力を向上させる。	地方公共団体における防災・危機管理担当部局の職員
マネジメントコース アドバンスト	大規模災害発生時に政策的な判断を迫られる事項等について、過去の災害事例等から具体的に学び、地方公共団体のトップを補佐する者としての能力を向上させる。	地方公共団体における防災・危機管理担当部局の職員のうち将来も当該部局の幹部として期待される者

特設コース

テーマ、目的を絞り災害対応の個別課題等に対する対応能力を向上させるための特設研修を年数回実施する。

災害対応の現地調査・支援

研究員等の派遣

国内外で大規模災害が発生した際には、研究員を現地に派遣。被災自治体に対し、災害対策本部等の運営支援や災害対応に必要な情報の収集・提供などを行います。また、被災地の実情に応じ上級研究員やリサーチフェロー(研究員OB)などの外部専門家とも連携し、より効果的な支援を実施します。



現場に学ぶ研究

現地での調査・支援活動を通じて得た成果を大規模災害被災地等にフィードバックするなど、『災害現場に学び、対策に活かす』サイクルを強化するため、災害対応に関する知識や実践的知見を体系的に蓄積し、知見の普遍化を図るための研究を推進します。



交流・ネットワーク

国内外の防災関係機関との連携



参加機関



神戸東部新都心(HAT神戸)を中心に**国際防災・人道支援協議会(DRA)**を運営し、フォーラム開催等を通じて国内外の防災関係機関との連携を促進しています。

その他、全国の災害伝承ミュージアムや、震災資料を収集・保存している博物館等との連携、交流をすすめる**災害伝承ミュージアム連携事業**を展開しています。

地域防災やまちのにぎわいづくりへの貢献

復興まちづくりのシンボルであるHAT神戸の安全・安心で賑わいのある街づくりへ貢献し、その姿を全国に発信するとともに、ふれあいまちづくり協議会、企業、JICA関西、県立美術館等との連携を推進しています。



若い世代へのアプローチの強化

新しい視点での防災・減災活動を促進するため、市民、ボランティア、NGO、行政関係者、企業等が協働する



Memorial Conference in KOBE BEYOND30+のほか、**1.17防災未来賞『ぼうさい甲子園』**や**夏休み防災未来学校**を実施しています。



また、世界に役立つ防災の知恵を盛り込んだ防災絵本を制作・発信する**防災100年えほんプロジェクト**の推進により、若者や子どもたちに防災の大切さを伝え、新しい災害文化の醸成を促進しています。



人と防災未来センター
公式ホームページ



Instagram
人と防災未来センター

施設概要

項目	西館	東館
建物構造	鉄骨造(制震構造) 地上7階、地下1階、塔屋1階	鉄骨造(制震構造) 地上7階、地下1階、塔屋1階
展示ゾーン	1階～4階	1階～3階
建面積	1,887.80㎡	2,059.97㎡
延面積	8,557.69㎡	10,197.08㎡
開館	平成14年4月	平成15年4月
大規模展示改修	平成20年1月	令和3年6月

観覧案内

料金や観覧申し込み等、詳細はホームページをご確認ください。

●開館時間

9:30～17:30(入館は16:30まで)

●休館日

毎週月曜日(月曜日が祝日または休日の場合は翌平日)、
年末年始
※臨時休館する場合があります。

●入館料金

高校生以下は無料
※20名以上の場合、団体料金の適用になります。
※毎月17日は、入館無料
(17日が休館日の場合は、翌18日になります。)

●観覧所要時間

1～2時間程度(見学内容により、所要時間が変わります。)

●観覧申込

- 20名以上の団体または貸切バスをご利用の方は、必ず観覧予約が必要です。
- 上映時刻が決まっているシアターに確実に入場したい時も事前に観覧予約をお願いします。
- 予約はWeb申込で、6か月前から先着順で受け付けます。

●有料駐車場

駐車券を総合案内にご提示ください。
※レストラン、ミュージアムショップおよび無料ゾーンのみご利用の場合、駐車場は割引対象外です。

●バス有料待機所(予約制)

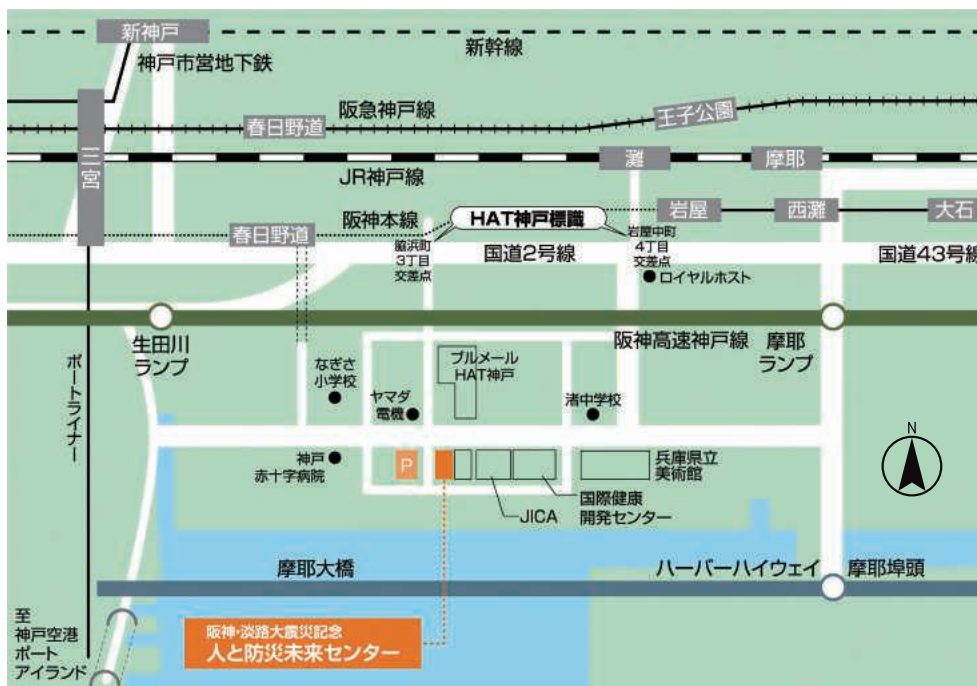
観覧予約時に待機所利用のご予約をお願いします。

●レストラン&ミュージアムショップ

東館の1階南側にはレストラン(約60席)とミュージアムショップがあります。

●観覧に当たってのご注意とお願い

- 館内は禁煙です。
- 著作権等により、西館4階および館内すべての映像の撮影・録画・録音は禁止です。
- 当センターからの生中継・生配信は禁止です。
- 携帯電話での通話や、レストラン等指定された場所以外での飲食はご遠慮ください。
- 酒気帯びの方など他のお客様に迷惑がかかる行為をされる方には、退館していただく場合があります。



●アクセス

鉄道

- 阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から南へ徒歩約10分
- JR「灘」駅南口から南へ徒歩約12分
- 阪急電鉄「王子公園」駅西口から南へ徒歩約20分

バス

- 阪神電鉄バス/JR「三ノ宮」駅前から「人と防災未来センター」までバスで約14分
- 神戸市営バス101系統/JR「三ノ宮」駅前から「HAT神戸行き・人と防災未来センター」までバスで約17分
- 神戸市営バス29系統/JR「三ノ宮」駅前からHAT神戸方面「人と防災未来センター」までバスで午前約24分(三宮→摩耶埠頭→HAT神戸) 午後約15分(三宮→HAT神戸→摩耶埠頭)

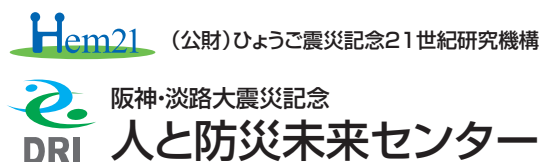
車

- 阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
- 阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
- 阪急・阪神「神戸三宮」駅・JR「三ノ宮」駅から約10分(国道2号線経由)
- JR新幹線「新神戸」駅から約15分

神戸空港から

- ポートライナー「神戸空港」駅から「三宮」駅まで約18分、その後上記交通機関へ
- お車をご利用の場合…国道2号線経由で約20分

記憶を力に未来を創る
～機関連携で挑む大災害への備え～



〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(HAT神戸内)
TEL.078-262-5050(観覧案内) ホームページアドレス <https://www.dri.ne.jp>

人と防災未来センターの概要・全体運営、災害対策専門職員研修について	078-262-5068	(事業課)
研究員(防災専門家)、災害対応、DRAフォーラムについて	078-262-5066	(普及課)
展示、企画展、語り部・ボランティアについて	078-262-5502	(運営課)
震災関連資料について	078-262-5058	(資料室)

事業課・普及課の休日は土日祝日および年末年始です。
運営課・資料室の休日は休館日と同じです。